

私と将棋

飄

々

広報委員

藤村 智之

昨今、世間は将棋ブームであるという。それに最も貢献しているのは、かの有名な藤井聡太 三冠（19）である。すでに彼に関する書籍は多数刊行されており、今更説明するまでもないかも知れないが、関心がなかった方のために説明しておく。

彼は、愛知県瀬戸市出身。14歳2か月という史上最年少でプロ棋士になった。それだけでも、ものすごいことと思うのだが、その後、公式戦29連勝という驚異的な記録を打ち立て、史上初の十代での九段昇進、十代での三冠（棋聖・王位・叡王）獲得など、次々と快記録を残している。当然ながら頭脳は明晰で、名古屋大学教育学部附属高校に進学したが、将棋に専念したいとの理由で卒業間近の2021年1月に中退している（Wikipediaより）。将棋界で、羽生善治 永世名人以来と言われるニューヒーローである。

風貌は、一重まぶたの垂れ目で、やや歯列不整、なで肩。しかし、将棋ファンからは「可愛い」と評判である。プロ棋士の大半がかけている近視矯正用眼鏡をかけていないところがまた素晴らしい。

彼と比較するのもおこがましいが、私は小学4年の時、父親から折り畳み式の将棋盤とプラスチック駒を買ってもらい、「将棋入門」という本を買って独学で勉強した。中学時代はクラスの将棋仲間数人が集まって将棋を楽しんだ。高校の時は、友人とたまに将棋を指すくらいであったが、山口大学の教養部時代に将棋同好会に入会し、補欠ながら2年間将棋に打ち込んだ。

将棋好きにはなぜか麻雀も好きも多く、週末は部員のアパートに入りびたり、徹夜で麻雀をしたものだった。教育学部で、お風呂嫌いのI先輩。“牛〇〇〇”という珍しい苗字の太い眉毛の先輩は深夜のラジオ番組の常連投稿者。バイク好きで強面の

H君。色白で真面目なI君は山口県立博物館の学芸員として働いている。高校将棋大分県代表のW君。農学部獣医学科で長身のJ先輩。個性派揃いの面々。あのころの仲間にもう一度会いたいと思う。

専門に上がったからも将棋熱は冷めず、同級生の高野尚史先生、囲碁の得意な内田耕一先生と一緒に、医療短大の学生数人も強引に誘い、「囲碁将棋同好会」を立ちあげた。顧問は当時薬理学教室におられた佐田英明先生にお願いした。

まあ、これはヘボ同士のお遊び的なサークルであったが、一応、自分や仲間のアパートを使って細々と活動した（私が卒業すると同時に自然に消滅したが）。小児科の先輩の茶堂先生とも、大学病院の研修医控え室で空き時間に将棋を指したこともあった。市中病院に移ってからも将棋好きのMRと医局の隅でパチパチとやったりしていた。私にとって将棋は、人と交流するための大切なツールであった。

私の棋風（将棋を指す上での指し手の特徴）は、飛車の前の歩を突いていく居飛車党で、たまに振り飛車や相振り飛車も採用する。

25年前には将棋道場に通って初段免状を取得したが、それ以上は昇段していない。

今ではネット将棋を楽しんでいるが、若い時のように頭が回転しないのが歯がゆくて、専らプロ同士の対局を観るだけになってしまっている（これを“観る将”と呼ぶ）。県内の医師の間では、将棋よりも囲碁人口が多いようであるが、県医師会将棋部を作りたいとも密かに思っている。将棋好きな先生方、ご連絡をお待ちしております。

4月から、広報委員のメンバーに加えていただきました。挨拶代わりに乱文を書き散らしました。今後ともよろしく願いいたします。